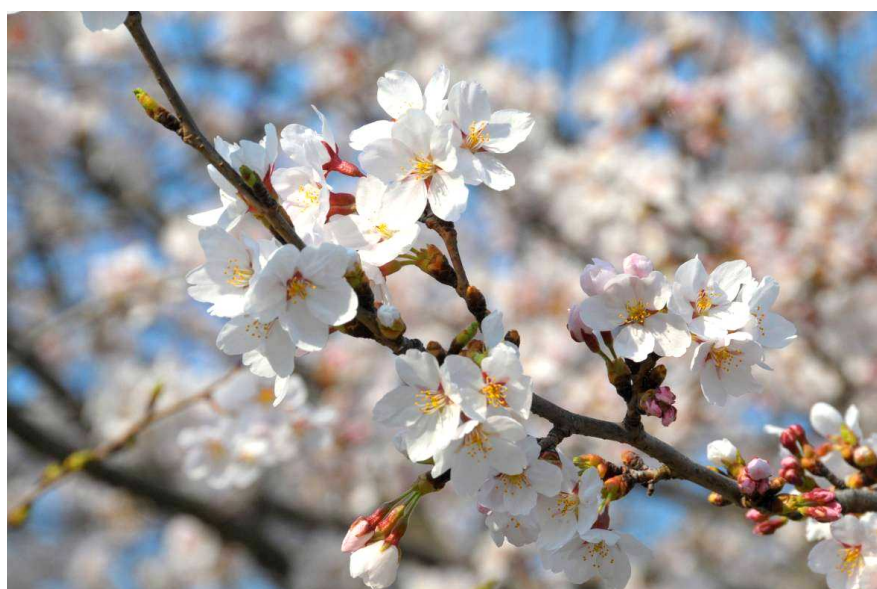


Monthly Report

Vol.60 / 2011 Apr.

町花「さくら」が柴田町を彩る



柴田町は、日本さくら名所100選に選ばれた「船岡城址公園」と「白石川堤一目千本桜」があり、東北有数の桜の名所として知られています。「さくら」は町花となっており、開花時期には「しばた桜まつり」が開催され、毎年20万人を超す花見客で賑わいます。震災の影響により今年の「しばた桜まつり」は中止とはなりましたが、訪れた花見客の心を和ませ、被災の疲れを癒してくれました。



目次

町花「さくら」が柴田町を彩る	1
勝田教授、荒井教授から報告	2
災害復興ボランティア	4
ハワイでも支援の輪	5
OBの竹之内 剛さんが災害ボランティア学生を激励	6
新任教員スタートアップ支援FDセミナー	7
全国大会での活躍	8

学生の活躍や、取り組みをご存知でしたら広報室までお寄せください。
Monthly Reportで紹介する他、報道機関にも可能な話題を提供していきたいと考えております。

本誌へのご意見・ご質問等がございましたら、広報室までご一報ください。

広報室

直通 0224-55-1802

内線 佐藤美保 256

土生佐多 200

伊東宏之 271

Email:kouhou@scn.ac.jp

学外で活躍される先生方

勝田教授が筑波大学に出向

<勝田教授より>

4月1日から筑波大学に客員教授として出向しました。現在、筑波大学は、文部科学省からオリンピック競技大会において日本の国際競技力向上を推進することを目的とした「チーム『ニッポン』マルチサポート事業」の「研究開発プロジェクト」実施団体となっており、国内の大学、研究機関、民間企業と連携して、オールジャパン体制によるマルチサポート・システムを構築する幹事校となっています。私は、この事業推進のために（筑波大学が）設置したスポーツResearch & Development コアプロジェクトの主幹研究員（運営統括補佐）として活動しています。

また、4月1日より文部科学省技術参与（競技力向上担当）の任も拝命しました。昨年度、文部科学省は、今後の我が国のスポーツ政策の基本的方向性を示す「スポーツ立国戦略」を発表しましたが、私は、この戦略に関する活動についても関わっていくこととなっています。

筑波大学を拠点として、日本オリンピック委員会（JOC）、ナショナルトレーニングセンター（NTC）、文部科学省、そして国立スポーツ科学センター（JISS）等の活動にこれまで以上に深く関わることとなります。仙台大学で培った経験やネットワークを活かし、トップスポーツの発展に尽力できるよう頑張ります。

荒井教授がみどり台中学校校長に就任

今年4月から荒井龍弥教授が名取市立みどり台中学校の校長に就任しました。大学教授が公立学校の校長に就任するのは全国でも初めてのことで、4月19日（火）に行われた入学式には朴澤学長も出席し、お祝いしました。

<荒井教授より>

宮城県教育委員会と仙台大学の連携協定により、4月1日名取市立みどり台中学校に赴任しました。この学校は生徒数642名、教職員44名という仙南地域では最大規模の創立14年目の若い学校です。高台にあり、地盤も強いのか、震災の被害はほとんどありません。海岸部との落差を感じています。県でも有数の進学校で、剣道やサッカーなど部活動も盛んです。本学卒業生も4人が教員として勤務しており、頼もしく心強い限りです。

生徒は4月18日から登校してきました。例年より10日遅れです。中学校の校長としてこれまでの専門領域（教授学習心理学）の成果を中学に還元しつつ、生徒を間近に見ながら授業の工夫のしどころを学び、本学学生に伝えていきたいと考えていますが、まだ勝手がわからずうろたえる毎日です。中学生の顔つきはどこか幼いところも残し

つつ、大人びたところもあり、新たな刺激となっています。30余年ぶりの給食生活も、毎日の楽しみです。

また、名取市中学校体育連盟の会長を仰せつかり、例年使用していた名取スポーツパーク（ナスパ）が震災で利用できないため、5月の市中学陸上競技大会の会場として仙台大学の陸上競技場をお借りすることにしました。赴任そうそう古巣(?)に泣きついた形となりました。学生の皆さんの協力も頂きながら、大会を成功させていきたいと考えています。どうぞよろしくお願ひします。近くにおいでの際はお立ち寄りください。

みどり台中学校校長室だより

<http://tt-arai.toypark.in/midoridai/menum.html>



スカーフ2柄が新発売になりました



仙台大学オリジナルグッズにスカーフがあたりしく仲間入りしました。シルク100%で価格は3,500円です。売店(タカトモスポーツ)で販売しておりますので、是非お買い求めください。

全国から届いた支援の輪



本学の活動がホームページを通じて、支援を呼びかけたところ、全国の皆様からたくさんの衣類等の協力をいただきました。その中に、心温まるお手紙や絵なども添えられ、“福祉の原点”を省みるような思いです。少しでも被災者の方々の勇気となれるのではないかと考え、今回物資とともに送られてきた手紙数点を紹介（無記名）させていただきます。

<http://www.sendaidaiigaku.jp/pdf/20110425.pdf>

なお、皆さまからご提供いただいた物資は、災害ボランティア学生が男女別・サイズ別に仕分けし、これまで亘理町・山元町・名取市・岩沼市・仙台市教育委員会にお届けしました。4月26日には津波被害を受けた東松島市や女川町の被災者を受け入れている美里町社会福祉協議会に届ける予定で作業を進めております。お寄せ頂いた皆様本当にありがとうございました。

<災害ボランティア事務局物資担当:大山教授より>



仙台大学ボランティアセンター御中

2011年4月16日

支援物資（衣類等）の送付について

拝啓 諸般お取り込み中の御事と拝察いたします。余震が続いておりますが、御地におかれましては無事お過ごしでしょうか。

さて、標記の件につきまして、インターネットで毎日新聞の記事を拝見し、4月8日ならびに15日に電話にて問い合わせをした者です。15日に貴センターご担当者様より物資の受入可能とご回答をいただきましたので、下記の品物を同封してお送りいたします。

物資はすべて未使用もしくはクリーニング済みです。1点ずつビニール袋に入れ、それぞれに品名・サイズ等のメモを同封してあります（洗濯済みのものは、クリーニング店が封入したビニール袋の一部を開封してメモを入れ、テープで再封してあります）。

衣類は既に届いている場所が多いかと思いつつ、子供用はサイズ合わせ等の問題もあるかと考え、また御地の今後の寒暖を想像して、少しでも選択肢があればとお送りする次第です。

実は我が家には子供がいないため、衣類の多くは家族の伝手でご近所から譲り受けました。また、洗濯の際は「そういう主旨なら」と、クリーニング店に料金割引してもらいました。このように本物資はいくつもの支援の志が集まったもので、私はその結節点の一つに過ぎません。私自身は本当に微力ながら、御地のお役に立てば幸いです。

今回の貴センターへのご連絡に際し、貴学のホームページを拝見いたしました。この度のご活動は「体育・スポーツ・健康に関わるあらゆる分野」「実学に根ざした広い教育研究領域の探求」という貴学ならではのものと感じております。物資仕分け・配送等、諸般ご多忙と思いますが、今後ともウェブ等でご活動に注目してゆく所存です。

末筆ながらこの度は心よりお見舞い申し上げますとともに、上何卒よろしくお取り計らい下さいますようお願いいたします。

敬具

学生・教職員が災害ボランティアとして活動

作業前



仙台大学では組織的なボランティア活動を通して、被災をして困っている方々のために役立ちたいと考え、賛同した学生と教職員が4月6日から津波被害の大きかった地区を中心に組織的に活動を始めています。

主な活動は、瓦礫の撤去・泥のかき出し作業で、上の写真は津波被害にあった小学校で行った

作業後



泥のかき出し作業です。震災前の「楽しい教室」を取り戻すために、学生・教職員が力を一つにして頑張っています。

14日からは避難所で生活する方々のエコノミークラス症候群予防のために、「健康づくり運動サポーター」による体操もスタートしました。

「思いやりは見える」を行動に移した留学生

～中国・吉林省からの留学生、唐志豪さん～



本学では震災後の3月15日に、留学生全員を一時帰国させました。多くの留学生は授業が再開する5月初旬に戻る予定です。そんな中、平成23年度に本学大学院を修了し、今年度研究生となった唐志豪さん(トウシゴウ/吉林体育学院 卒)は4月4日に再来日し、本学の災害復興ボランティアに登録。亘理町での瓦礫撤去・泥かき出し作業等に参加しています。唐さんは「今まで経験したことがない巨大地震

震を日本で初めて実体験し、この震災によって多くの日本人が被災し、つらい想いをされていることを理解していました。中国の両親には日本に戻ることを強く反対されましたが、いてもたってもいられず、日本に戻ることを決心しました」。公共広告機構(AC)のCMで放送されている「思いやりはだれにでも見える」という言葉が心に響いたそうで、「困っている人のために行動することが大事。被災された方々の生の声に、涙が出ることもあります。これからも自分ができることを「思う」だけでなく「行動」に移し、被災者をバックアップしていきたいです。」と話しています。

エコミークラス症候群予防のための体操指導もスタート

～本学の健康づくり運動サポーターが活躍しています～



4月11日から「健康づくり運動サポーター」によるエコミークラス症候群予防運動指導もスタートしました。エコミークラス症候群とは、避難所などの狭い空間で長時間、同じ姿勢を続けることによって下肢静脈中に血栓ができる症状で、肺に血栓が飛べば肺塞栓をおこす恐れがあります。「健康づくり運動サポーター」は月曜日と木曜日の週2回、亘理町の避難所でエコミークラス症候群予防運動の指導を行い、日々の軽運動実施と十分な水分摂取を呼びかけていきます。

「健康づくり運動サポーター」とは・・・仙台大学の人材養成プログラムの1つで、地域住民の健康づくりに学生を教育の一環として参加させ、そこで実践力を養った学生が、再び市町村事業の指導者として還元されるという特徴をもつ仙台大学独自の取り組みです。詳細はこちら(<http://www.scn-gp.jp/kensup/>)をご覧ください。

(株)アドリベラルよりビブス300枚提供



仲野教授を通し、(株)アドリベラルよりビブス300枚が提供されました。

この企業は被災者や救援者に商品の無償提供を推進している企業で、仲野教授が仲介に入り「がんばろう!東北 仙台大学」の文字が入った赤色のビブスを提供いただきました。

被災地では本学関係者その他のボランティアの方との区別が付きにくいいため、このビブスを活用し、今後の活動に当たって大切に活用させていただきます。

(株)GANBAXよりTシャツ7000枚、ジャージ5000枚提供



組織的に災害ボランティアを行う本学の取り組みに賛同していただいた(株)GANBAXよりTシャツ7000枚、ジャージ5000枚を提供いただきました。(株)GANBAXは本学のジャージの取引業者であり、伊達なSPORT PROJECTの協賛企業でもあります。この物資をサイズごとに仕分けを行い、主に津波被害にあった方の避難所に届けました。

藤田雅士さん(院2年)



仕分け作業のリーダーを務めた藤田雅士さん(大学院2年)は、「巨理町鳥の海は大学に入学してから海水浴や足湯などで楽しんだ思い出の地。先週状況を見に行き、変わり果てた情景に涙が止まりませんでした。青の光景を見ると自分も被災者だと思っていたものの、自分なんてたいしたことないと感じました。今回、(株)GANBAXのご好意で頂いたTシャツ、ジャージは、学内でサイズ毎に仕分けをすれば被災者の方々への提供もスムーズにいくと思うので、自分ができることをやり、被災者の方が少しでも喜んでもらいたいです」

ハワイでも支援の輪が広がっています



UNIVERSITY
of HAWAII®
MĀNOA

ハワイ州立大学アウトリーチカレッジ・プログラムディレクターのジュディさんより、ALOHAの文字に日の丸のついたTシャツやステッカーが届きました。

これは現地(ハワイ・オアフ島)にあるドンキホーテで震災後、急遽作成した日本を支援するためのグッズだそうです。

東日本大震災のニュースが世界中を駆け巡ると、ハワイでも日系人を初めとして多くの方々支援に立ち上がり、こうした商品を作って販売し、その利益の一部を日本への義援金とする動きが広がっているとのことでした。

海を越え、本学が連携している大学を中心に、世界各国からあたたかい支援の手が差し伸べられています。



UHアウトリーチカレッジ 新学部長のウィリアム・チヌマ氏とプログラムディレクターのジュディ・エンジグ氏

OBの竹之内 剛さんが災害ボランティア学生を激励

昭和61年度卒 奈良県上牧町立上牧第二中学校教諭



4月25日(月)に本学OBで奈良県上牧町立上牧中学校に勤務されている竹之内剛先生が来学し、災害ボランティアで活動している学生を激励くださいました。竹之内先生は被災した方々を願いを叶えることでバックアップしようと、『ねがいごと、100こ。プロジェクト』(http://ameblo.jp/negai-come-true/)活動に参加し、願いごとを叶えるために22日から25日まで宮城県内の被災地を回られています。22日に恩師である穴戸教授の元を訪れた際に、仙台大学の学生・教職員が組織的に災害ボランティア活動をしていることを知り、是非、激励したいとのことで実現しました。竹之内先生は「皆さんの活動は被災した方々の心の栄養、魂の栄養となります。「支えよう僕たち私たち」という思いで頑張りましょう」と話されました。

竹之内剛さん

「地震当日(3/11)、私は岩手にいました。大学の時によく遊びに行った安比高原スキー場(岩手県)に自分の子供を連れて行きたいという長年の夢を叶えて地



震当日の朝に仙台空港に降り立ち、安比でスキーを楽しんでいました。2本目を滑っている時に地震がおき、ニュースで自分たちが数時間前に降り立った仙台空港が津波の被害に遭ったことを知り、ゾッとしたことを覚えています。3日後に秋田経由で奈良に帰りましたが、自分たちだけ安全な場所へ戻っていくことがたいへん忍びなかったです。

「自分が被災者のために何ができるかを考えていた時に、『ねがいごと、100こ。プロジェクト』の活動をテレビで見、参加することを決めました。「被災したからといって夢をあきらめる必要はない」という言葉に共感したからです。

職場には理由を話して活動のための休暇をとり、22日から25日まで宮城に滞在し、気仙沼中学校男子バスケット部の「バスケのボールの試合がしたい」という願いを叶えるためボールをプレゼントして試合を開催したり、「前日にももらった時計が津波に流されてしまった」という方の願いを叶えようと業者にかけあい、協力を得てプレゼントしたり、被災地を回って話しを聞いてまわりました。

願いごとと全部は叶えられませんが、水に1滴の塗料を垂らすと水面に広がるように、自分の行動がほんの少しの誰かの役に立つ栄養になってもらえればよいと思っています。

久しぶりに母校に来ましたが、後輩たちが災害ボランティアとして率先して頑張っている姿を見て、たいへん誇らしく感じました。また、仙台の同期たちも宮城県でボランティア活動するための車の手配や、自宅に泊めてくれるなどサポートしてくれました。仙台大学の卒業生であることを誇らしく思い、今回来てよかったと心から感じています。」

この日、竹之内さんは奈良に戻りましたが、「必ずまた来ます」と話されていました。

『ねがいごと、100こ。プロジェクト』についての詳細は下記のブログをご覧ください。(テレビで取り上げられた活動等も紹介されています。)

<http://ameblo.jp/negai-come-true/>

あなたの願いを叶えさせてください！
そんな思いをつなぐチームがあります
http://ameblo.jp/negai-come-true

「願いは届いていますが、なぜ実現しなくていいのか? そんな疑問から『ねがいごと、100こ。プロジェクト』はスタートしました。日々の中で、少しでも多くの希望が叶うよう皆さんの願いを聞いています。日本において、今必要なのは希望と志です。私たちは大学を離れ、さまざまな思いを抱いて、その思いが届けばいいほど、行動させてもらいます。是非一度あなたの願いをお伝えください。

「ねがいごと、100こ。プロジェクト」
negai_come_true@yahoo.co.jp

「日本全国の支援メンバーがみんなの願いを叶えています！」

平成23年度 第1回新任教員スタートアップ支援FDセミナー開催



4月27日、A棟2F大会議室において新任教員スタートアップ支援FDセミナーが開催されました。このセミナーは、教育企画委員会の教員が中心と

なって、毎年企画開催しているものです。仙台大学の教学経営や、核となる3つのポリシー、新カリキュラムとあわせて今年度より導入するCAP制とGPA（評価指標）、学生指導や教務等の諸手続きなど、それぞれ専門の教職員より説明がなされました。セミナーの最後には、フリートークの時間が設けられ、グループごとに新任の先生や既存の先生との間で色々なコミュニケーションを図っていただきました。テーブルを超えて自然な対話や意見交換がなされ、参加した教員同士の交流が和やかにかつ活発に行なわれました。

大学全体でエコの取組にひきつづきご協力を



プラスチックごみと、紙パック収集開始について

柴田町は、平成23年4月より、プラスチックゴミ分別と、牛乳パックやジュース飲料の紙パックの資源回収を実施することとなりました。大学構内各所のゴミ箱には、あらたにプラゴミ分別ボックスと紙パック分別ボックスが設置されましたので、資源ごみの分別に、積極的にご協力いただきますようお願いいたします。不要な紙類もまるめたり、ちぎったりせずに、今まで同様にコンテナへお願いいたします。機密書類はシュレッターにかけてください。



エコ（ペットボトル）キャップ収集について

3月8日に、NPO法人エコキャップ推進協会に対して第8回目となるペットボトルキャップの送付を行ないました、今回送付した分を合わせると送付数累計は100,400個になりました。これは791kg CO₂の発生を抑制し途上国の子ども125人分のポリオワクチンを接種させることができる量に相当します。

学生の集うKMCHの自動販売機前に「協力ボックス」をつくり協力を呼びかけ集まったペットボトルキャップ1600個を送付したのを契機に、学内全ての建物内にも協力をよびかけ活動を推し進めています。

NPO法人エコキャップ推進協会はペットボトルキャップの再資源化することで、焼却処分が発生するCO₂を削減し、資源化で得た売却益で「世界の途上国の子どもたちにワクチンを寄贈し救済する」ことを目的とした活動を実施しています。エコキャップ推進協会HPで「仙台大学」からの送付分実績が確認できます。

<http://ecocap007.com/>

今後ともなお一層の資源化へのご協力をお願いいたします。



漕艇部が第60回お花見レガッタで奮闘

4月3日（日）に戸田漕艇場（埼玉県）で行われた第60回お花見レガッタに出場し、女子ダブルスカルで優勝、男子エイトで3位に入る活躍を見せてくれました。震災から間もないため、部員が終結したのは大会1週間前という非常事態で、素晴らしい結果を残せたのは、日頃からチームが結束している証といえます。今シーズンの活躍にも期待が持てます。



全日本体操競技選手権大会(個人総合)

4月23、24日、代々木第一体育館（東京都）において体操の個人日本一を決する「第65回全日本体操競技選手権大会（個人総合）」が行われました。この大会は、世界選手権やユニバーシアード大会などの世界大会代表の第1次選考会ともなっており、本学体操競技部の6名と卒業生3名が出場しました。この大会で上位36名は2次選考会となるNHK杯（6月開催）への出場権が与えられます。

本学関係者では石原大さん（体育学科4年）が20位、亀山耕平選手（平成22年度卒／徳洲会）が32位となり、第2次予選会へ進むこととなりました。2人はユニバーシアード大会へのチャンスが十分に残っているので頑張ってもらいたいものです。

また、植松鉦治選手（平成20年度卒／コナミ）は右膝前十字靭帯を損傷し、今季の復帰は絶望と報道されていますが、2012年ロンドン五輪では、その雄姿を見せてくれることに期待したいと思います。

永井裕子さん・仲田助教が柔道の全日本選手権大会に出場



仲田助教・前部長の須山先生・永井さん
写真：仙台大学柔道部のブログより

4月17日（日）に行われた第26回皇后盃全日本女子柔道選手権大会（体重無差別）に東北地区予選会を制した永井裕子さん（体育学科4年）が東北地区代表として初出場しました。惜しくも初戦で敗れたものの、この権威ある大会に本学在学中に出場したのは永井さんが初めてのことです。（昨年、OGの田中美衣選手が社会人1年目で出場）

男子の全日本柔道選手権大会は4月29日（金）に開催され、同じく東北地区予選会を制した仲田助教が出場しました。仲田助教がこの大会に出場するのは3年前に関東代表として出場して以来、2度目のことです。初戦で敗れはしたものの被災地に勇気を与える戦いとなりました。